Osaka University Knowledge Archive

Title	大阪大学看護学雑誌　4巻1号 編集後記
Author(s)	中尾, 由紀子
Citation	大阪大学看護学雑誌. 1998, 4(1), p. 82-82
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/56713
rights	©大阪大学大学院医学系研究科保健学専攻
Note	

Osaka University Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

Osaka University

編 集 後 記

急速に迫り来る高齢化社会に対応すべく、医療・看護を取り巻く環境は、大きな変換期を迎えている。1997年12月に、公的介護保健制度は、参院をも修正案追加で可決を見た。厚生省は、2000年4月の実施に向けて本格的な体制作りに着手している。ケースマネジャー、介護認定審査員、在宅看護の充実等、看護職に求められる内容は非常に大きい。中でも特に、在宅での看護の展開は、看護婦個々人の人間性はもとより、臨床実践能力が大きく求められる。今後の看護の基盤は、従来の施設内から需要の大きい施設外へと動き、専門職として充実期を迎える躍動感を感じているのは私だけでしょうか？

1998年4月には、保健学科看護学専攻の第一期卒業生を看護婦に迎える。お互いのコミュニケーションを良くし、新しい風を吹き込んで貰いたい。新鮮な風を通して、教育と臨床サイドの交流が深まり、さらなる看護の発展を期待したい。

さて、第4巻も第3巻に引き続き多くの方々のご努力により発刊することができました。今回は、残念ながら臨床からの研究投稿がありません。アンケート調査に見られたように、臨床看護婦からの看護研究へのささやかな芽が、大きくなり実を結ぶことを願ってやみません。

（編集委員　中尾由紀子）

編 集 委 員 会

委員長　早 川 和 生（大阪大学医学部保健学科地域看護学講座）
委　員　安 藤 邦 子（大阪大学医学部附属病院看護部）
中 尾 由紀子（同　上）
谷 浦 葉 子（同　上）
小笠原 知 枝（大阪大学医学部保健学科基礎看護学講座）
荻 野 敏（大阪大学医学部保健学科成人・老人看護学講座）
査　読　福 岡 富 子（大阪大学医学部附属病院看護部）
中 山 弥 生（同　上）
江 川 隆 子（大阪大学医学部保健学科成人・老人看護学講座）
原 田 徳 蔵（大阪大学医学部保健学科母性・小児看護学講座）
高 木 洋 治（同　上）
三 上 洋（大阪大学医学部保健学科地域看護学講座）